

ASA
大田中央

ASA
東大井

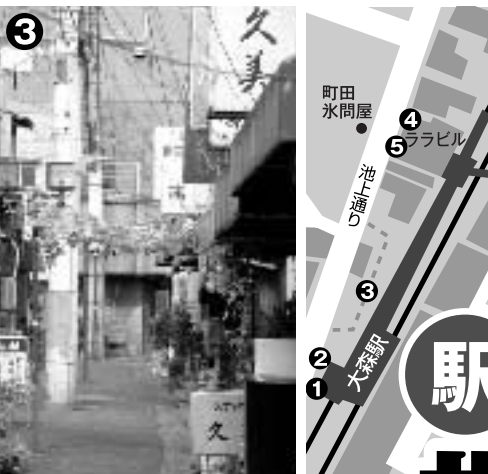
Presents

2007.11月

ASAスタッフは町歩き達人でもある。朝日新聞販売店発ご近所散歩ミニミニ

歩く目的

No.7
(毎月25日発行)



①大森駅西口から 東口にくらべて、どこかローカルな雰囲気さえただよう西口駅前が好きだったりする。

②賑わう池上通り 屋根のあるアーケードを、並ぶお店を眺めながら歩き始める。



駅前だって散歩道

③池上通りから階段を降りると 階段の先には、雰囲気ある飲屋街(山王飲食商店街)があった。小料理屋さんにスナックが連なる小道。夜には色とりどりの看板が灯る。



④あつあつのたこ焼き 町散歩では見過ごせない路面のグルメ。「ララビル」のたこ焼き屋さん。駅前のたこ焼きを食べれば、その町が分かる!?

街角で歴史発見!

町田氷問屋の看板建築

「看板建築」とは、関東大震災後に建てられた商店でよく用いられた建築様式。建物の前面を平坦にし、モルタルや銅板で建物自体を看板のように装飾している。町田氷問屋は状態が良く、今でも杉葉紋などが細工された銅板が外からわかる。



大森駅西口周辺

駅前の喧噪とつかず離れず。気持ちのはのびり歩いてみると、あっという間に時間が過ぎる…。



⑤ララビルの花園

「大森はずいぶん変わったわね」と、25年以上この駅前で商う花屋の丸高さん。正月以外は毎日ここで花に囲まれているという、おかみさん。



6 ジャーマン通りをどろんどろん歩く
通り名は1933年～1991年までドイツ人学校があったため。道自体はジャーマンな感じはあまりしない。



和菓子は、喫茶スペースで楽しめます！

7 記録帖という名の和菓子店

なんのお店？と、ジャーマン通りで気になった「菓子の記録帖」という看板。店内には、アートのように展示されている和菓子。“後世に残したい各地の和菓子”をテーマに、全国の選りすぐりが集められている。鑑賞…そして、ちゃんと味わうという贅沢な和菓子タイム。

「菓子の記録帖」 大田区山王2-7-2 電話(3774)3389



←石川県輪島、中浦屋の「丸ゆべし」

→和歌山県、総本家駿河屋の「本ノ字饅頭」

子ネコみたいに小さなライオンの交通安全の碑。

小さなギャラリーやおいしいピザ屋さんがあります。

広い駐車場。秋の空もよく見えます。

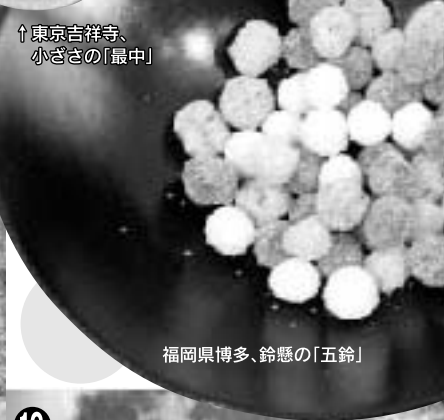
古い佇まいのすてきな家々が。

マミフラワーデザインスクール1階には花器や花に関する本が売っています。

天祖神社の裏に通じる道。



坂道の路地を行く



↑東京吉祥寺、小ざさの「最中」

福岡県博多、鈴懸の「五鈴」

8 静かな家々の間を行く道

住宅街へ誘うように現れたレンガ色の道路。立ち並ぶお宅や植栽を眺めながら行く。

9 のほりたくなる坂道

石垣の続くなだらかな坂道にきた。前を歩くおじいちゃんが顔馴染みとすれ違い、“あ、どうも”と坂の途中で立ち話。学校帰りの子どもがその脇を駆け上がる。それにつられて自分も坂をのぼる。

10 ほっかり秋の空

坂をのほり切ると、ビルの横から秋の空が広がる。秋から冬へと移ろう空の表情を見た気がした。



殺菌効果がある竹炭を生地に練りこんだ真っ黒な食パン。炭食パン160円

今年の4月にオープンしたティンカーベル。信州で人気のパン屋さんの東京1号店。

11 神社の裏側から 天祖神社の裏に出た。八幡太郎義家が松の木の枝に鎧をかけたといわれる「鎧掛の松」の伝説がある神社。その松は今はない。

12 天祖神社から 神社脇の階段を降りていく。その下に、再び駅前の賑わいが聞こえてくる。

13 文士村のレリーフ 階段沿いに、馬込文士村の歴史を伝える銅板のレリーフが続く。大森で暮らした文化人達がダンスや相撲に興じた様子が見えてくる。

14 ぐるりひと廻りして 駅前へ戻ってきた。ララビル隣のパン屋さんでお土産に「真っ黒な食パン」を買う。いつも利用している駅前だからこそ盲点もある。時間と足を使って、今まで踏んだことのない路地の道歩いてみると、駅前だって結構な散歩道になる。

日替わりで6～7種類の動物が登場する動物パン。パンダ165円



※次回は、「東大井1丁目」界隈を散策する予定です。

バックナンバー 差し上げます。

(専用バンダー付)
ASA大田中央・ASA東大井までご連絡下さい。

創刊号「内川の終点まで歩く」
第2号「近所で迷う」
第3号「休日のフリマへ」
第4号「青物横丁の鯉」
第5号「気になる店に入ってみる」
第6号「白田坂漫遊」